

復活節第4主日(世界召命祈願の日) 5月3日 (ヨハネ10・11-18)

司祭も羊

二十九年前、司祭に叙階された。叙階式で読まれる福音の箇所を自分で決めることができた。ヨハネ福音書十章の十一節から十八節を選んだ。本日のミサで読まれる福音の箇所。イエスは言う。「わたしは良い羊飼いである」

司祭になるといふことは「良い羊飼いな」なることだと思っていたので、この聖書の箇所を選んだ。そして「わたしは羊のために命を捨てる。わたしには、この囲いに入っていないほかの羊もいる。その羊をも導かなければならない」というイエスの言葉を自分の使命と思った。自分は「良い羊飼いな」になって、人びとを導く。教会の外にいる他の人を教会という囲いに導き入れなければならぬ。これが司祭の役割だと思っていた。気持ちが燃えていた。

司祭になってどのくらい時間が過ぎたのだろうか。ある時、「良い羊飼いな」はキリストだと気づいた。自分は「雇い人」だと気づいた。

「良い羊飼いな」は羊のために命を捨てる。羊飼いなは、自分で



分の羊を持たない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして逃げる。「良い羊飼いな」は自分の羊を知っている。「良い羊飼いな」は羊を愛している。だから、「良い羊飼いな」は羊のために命を捨てる。

自分が羊だと気づいた。キ

リストが「良い羊飼いな」で、キリストはわたしを愛し、わたしのために命を捨ててくださいました。

そのことに気づいた。

若かった。司祭に叙階されたことで「良い羊飼いな」になったと思っていた。キリストは「わたしは良い羊飼いなである」と言っているのに、司祭に叙階された自分は「良い羊飼いな」になったと思ひ込んでいた。ここらでどこかで自分がキリストになったと思っていた。今、それを思うと身震いする。

司祭とは。キリストが「良い羊飼いな」だと知っている人。キリストが「自分の羊飼いな」だと知っている人。キリストは自分のことをいちばん知っており、自分を愛してくださっている方だと知っている人。

叙階された時、記念品を山ほどいただいた。その中に手作りの大きな額があった。中には写

真の「コピ」が入っている。羊飼いが先頭を歩き、羊の群れがそれについて行っている。先頭を歩く羊飼いが自分だと思っていた。それが理想の司祭の姿だと思っていた。今では、羊の群れの中の一匹が自分に見えてくる。

今日は世界召命祈願の日。理想の司祭の姿は、あらためて記念の額をじっと見つめている。

(山元真二福岡教区司祭/カッター上下とも||高崎紀子)

この週の福音

4日・月	ヨハネ	10・1	—10
5日・火	ヨハネ	10・22	—30
6日・水	ヨハネ	12・44	—50
7日・木	ヨハネ	13・16	—20
8日・金	ヨハネ	14・1	—6
9日・土	ヨハ	14・7	—14

